

みんなの未来の地域生活をみんなで考えるワークショップ研修事業

社会福祉法人 ふらっと

〒690-0883 島根県松江市北田町 269

助成事業の概要

この事業は、障がい者等のこれからの地域生活を考える場合、当事者だけでなく、支援者や家族、行政、企業、住民等がお互いの立場を理解しながら共に未来の地域づくりを考え、実践していくことが必要だと考え、様々な立場の人々とそれぞれの地域生活課題を浮き彫りにしながら課題に対する「できること」を話し合い、具体的行動に繋げ、継続して課題解決に取り組んでいけるチームを作ることを目的とし開催した。

日程 11月8日(日)～3月14日(日)

- 1回 そもそも地域生活とは・新しいつながり～with コロナの時代に向けて～
- 2回 それぞれの地域生活を考える・「でし」ワーク～それぞれの生活を考える～
- 3回 みんなの地域生活を考える・より良くしていくために～試されるわたしたちの工夫と行動力～
- 4回 理想の地域生活のイメージをつくろう・お互いを活かす協力関係～「今、出来ること」から始めるを意識する～
- 5回 理想の地域生活の実現方法を考えよう・5年 10年 20年後を描く～わたしたちの強みと弱み～
- 6回 実現に向けてのチーム作り・伝える作戦会議～他者を巻き込む、共感を得る～
- 7回 大作戦大発表

事業の成果

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言が発令される中で開催が危ぶまれたが、日程を11月からとし、途中雪のため延期もあったが感染対策を行いながら無事開催することができた。参加者(初回24名)についても予定していた人数には達しなかったが、障がい者、福祉関係者はもちろん学生(小学生～大学生)や社会人も参加があり様々な立場の人たちが集い、コロナ禍におけるそれぞれの地域生活の課題等を話し合う中で、課題解決に向けた計画を立てることができた。

内容については表現方法を工夫した。開催にあたり打ち合わせの中で、新型コロナウイルスの影響を受け、地域生活における課題は障がい者に限らず様々な形で表面化した。その課題を参加者がコロナ禍やアフターコロナに向けて自ら行動し、みんなで解決していけるイメージをしやすいするため、タイトルを「コロナと〇〇大作戦 2020」とした。

また、実際ワークショップでは全7回すべての回でグループワークを取り入れ、チームとして課題に取り組めるようにした。特に2回目「でし」ワークでは、それぞれの出来ること、してほしいことを出しあいながら、生活課題について話し合った。そして「してほしいこと」を元に、取り組む5つの課題を投票で決定したこともあり、その後の話し合いも自分たちの「出来ること」を考え、現実的な取り組みについてチームで議論できていた。

取り組む課題と作戦名

- ①【福祉について】～障がいのある人もない人も
気がねなく遊べる場所を作ってほしい～
◎誰でも気兼ねなく嫁が島に渡ろう作戦
- ②【助け合いについて】～困っている人がいたら
お互いに声をかけあってほしい～
◎突撃となりのお節介大作戦
- ③【お金について】～お金の不安をなくしてほし
い～
◎お金のこと語りましょう会
- ④【心について】～友達がほしい～
◎友だちづくりをあと押ししますよ。
- ⑤【居場所について】～話し相手がほしい、特に土・
日～
◎チキチキ大作戦(仮)

アンケート結果として、5つの課題解決作戦は発表終了後も実行に向けて行動することが大切だと意識してもらえた参加者があることはうれしいことである。

成果の広報・公表

参加者募集はチラシの配布、SNS 等での呼び掛け等を行った。

事業報告書は参加者及び関係各所への配布を行っている。

またワークショップ最終回で課題解決に向けた作戦発表の様態について、インターネット動画配信サービスを利用した公開を予定しており、ホームページや SNS 等で紹介し、今後の活動フォローも行っていく。

https://www.youtube.com/channel/UC4LqKC_M6-DlpQ3-OpXXAhg

すでに課題に取り組むチームの活動が始まっており、地元メディアへの情報提供も行いつつ繋がりを広げていく。

今後の展開

ワークショップ最終回で課題解決に向けた作戦発表を行った5つのチームは、それぞれ作戦を実行するため活動を始めている。

特に障がい当事者がリーダー的役割を担っているチームは活発に取り組み準備を進めている。継続できるようフォローしたい。

今回法人同士の繋がりもワークショップ運営を協働したことで強まった。今後、法人間連携を進め、合同研修や地域生活課題解決に向けた協働事業、新たなサービスの創設等にも繋げていきたい。

新型コロナウイルスの影響がいつまで続くかわからない状況であるが、その中で地域生活を障がい者等の課題に限らずみんなで考えていくことが大切だと改めて気付いた。

今後も今回の参加者等の繋がりを活かしながら、ワークショップについても、みんなで考える機会、みんなが繋がる機会として継続していきたいと考えている。